

**保幼小中一貫教育の推進方針・学校等再配置計画についての住民説明会
質疑応答要旨(11/24)**

* 質問・回答とも要旨を記載しております。
本説明会の主旨に関係する質問のみ掲載

No.	種別	発言内容	回答内容
D-1	意見	「小中一貫校をつくる」ところまでは十分論議され、教育委員会で決められたら良いと思いますが、教育委員まで入れて決めてしまうのは、住民を無視しています。住民やPTAの意見を聞いてやったのであれば、それは住民の責任でもある。それが自治と思う。計画を白紙に戻して、住民の意見を聞き、住民の判断に任せるのが筋だと思います。	教育委員会が考えなければならないことは、子どもたちの教育環境、公教育としての在り方です。最初に説明しましたが、子どもたちが減っていく、それにより条件が厳しくなる。これは今回だけで議論されたことではなく、はじめは西地区でしたが、少子化でデメリットが生じるということで、平成22年から議論を重ねてきました。議論には、保護者や地域の代表の方に入ってもらい、議論を重ねてまいり、それらを踏まえ、進めております。
D-2	意見	答申の4案を1案に教育委員会で絞ったことは良いが、決定権まではないと思います。文科省手引3頁「地域コミュニティとしての性格への配慮」には「行政が一方向的に進める性格でない」と明記されている。これを無視しているのではないですか。	教育行政の継続性があります。答申の中での検討課題を教育委員のなかで議論をさせていただき、町長部局へ案をお示しし、教育大綱としてまとめられたということです。
D-3	質問	この説明会は、小中一貫校を西地区につくるということを決定した説明会ですか。	教育大綱をお示しし、それを皆さんに説明しております。決定事項ではなく、案をお示しているということです。いま皆さんにご意見を聞かせていただいて、今後どう対応していくべきかを判断させていただくためにお集りいただいています。
D-4	意見	この話の出発点は西地区3小学校の再配置の話がスタートと思っています。平成21年5月からの議論には、学識経験者、学校関係者、各自治会代表、各学校PTA代表を集め、会議をされています。それを進め平成28年3月に答申がでています。その間、6～7年をかけて地域の意見を聞いています。その答申の中で、各地域の実情があるで、再配置は早急にはしてはならない、人口増のまちづくりを進めるべき旨が記載されています。その後、約1年半、さほど議論はされていないにもかかわらず、昨年8月から4か月間で1小1中を決められています。教育委員会議も問題で、教育委員はほとんど西地区の方で、やっと12月に希望ヶ丘の委員が加わりました。それまで東地区の誰の意見も聞いてません。決め方に疑問があります。東地区の住民、PTA等に意見を聞いた上で決めるべきではないですか。	これまでの提言・答申を十分参考にし、決めてきたと思っています。東地区の意見が入っていないのではないかとのことですが、平成28年の答申は、全小中の保護者(ふたば園、東能勢小・中も)の意見を踏まえて、作られています。学校は地域の核という性格もありますが、この再配置については、やはり教育の質をどう確保していくか、教育条件の低下をどう防ぐかが最大の目的であります。子どもと地域の関係、地域と学校の関係も当然あります。PTAや校区青青協等、地域との連携については、今後十分議論したうえで進めていきたいと思っています。教育委員については、12月に希望ヶ丘の方が入りましたが、それまでも東地区からは2名いました。(東2人、西3人)場所についての議論は、12月以降であります。それまでは、教育内容について議論しております。(2小2中案も検討している。)場所は、確保可能な面積、通学バス等々考慮し、選定しました。皆さんの意見を聞かせていただいて、最終的な結論については出していきたいと思っております。
D-5	質問	「この問題については、今後、地域住民等と話をしていく」、「この計画は仮だ」という認識でよろしいか。	皆さんのご意見は聞かせていただきますが、最終的には教育委員会、皆さんの代表でもある議会と議論させていただいて決定をさせていただきたいと考えております。
D-6	意見	人口を増やす努力はされていますか。東地区から学校が無くなれば、若い人が住まなくなってしまう。	子どもの教育も転入先の選択の要素ではありますが、東能勢小・中学校につきましては、10年先になると1クラス10人を切るという状況が考えられます。小規模校の良いところもあるとは思いますが、デメリットが多いと考えています。

D-7	質問	車を運転できない保護者もおられます。保護者がどう学校に関わって行けばよいのでしょうか。 西地区の説明会で人口増は見込めない旨のお話がありました。東地区の転出者の流出をどうやって食い止めようと思っておられますか。 今後の説明会の予定はありますか。	人口の問題ですが、これまでの説明のとおり20～30代で就職・結婚を機に、利便性を求めてや、住宅の事情で転出されることが多いです。 子育て施策は、種々講じておりますし、町づくりにつきましても、道の駅も考えておりますが、右近の郷や志野の里、農業支援、起業支援などを通じまして若い方々に留まっていただくよう、様々な事業に取り組んでおります。我々は、東地区・西地区と分けて施策をしているわけではありません。
D-8	意見	西地区に施設、サービスが集中しています。	東西に全て二つ作っていく、施策を講じていくというのは、財政的に難しい状況ですので、ご理解ください。
D-9	意見	子どもの教育が一番大切ですが、学校は住人にとってもコミュニティの核であるし、地域住民にとっていかに学校が大切なものかを考えて欲しいです。 1小1中が良いのか、一貫教育が良いのか分かりませんが、若い方の意見を聞きながらやっていただければと思います。	保幼小中一貫教育の背景には、危機感と挑戦が存在しています。危機感には家庭教育の低下、教育力の低下、気持ちのコントロールが苦手な子どもの増加、小学生の暴力行為の増加、いじめ・不登校への対応の難しさ、保護者の学校への理解、資源の変化、6-3制の制度自体への課題、子どもの数の減少、進級時に馴染めない子どもの増加など様々な課題を抱える子どもたちが出てきています。子どもたちの環境が大きく変化している中で、学校教育の制度が明治以来、形を変えていない。このまま継続すると、先生の力量に頼る学校づくりになってしまいかねない。これでは子どもたちの発達の変化や保護者の意識の変化、社会の変化に十分対応して行くことが難しい、学校の構造改革をしなければならぬ。その一つとして出てきたのが、小中一貫教育です。もともと広島県の現場から出てきたもので、現場の先生が、「大人中心でなく、子どもたちを中心に据えた学校教育ができる」「制度中心でなく、いまの子どもたちに対応した教育ができる」という思いから出てきています。そのための一つの形が小中一貫ですので、子どもたち中心の学校教育がより進んでいくというのが最大の魅力です。質の向上もしていくものと思っています。
D-10	意見	11/20の説明会で会場に来られている方にアンケートを取らせていただきました。「学校を存続させて欲しい」という人が約100人中、84人いる。これを受け止めてもらって、議論を続けてもらわなければならないと思います。	今後の対応ですが、保護者説明会・住民説明会の内容等を教育委員会、行政、議会で十分協議をさせていただき、対応を検討させていただきます。
D-11	意見	西地区の住民です。西地区と東地区の意見の差があると感じました。満場一致とはいかないでしょうが良い方向に進んで欲しいと思います。このように喧々諤々、東と西が意見がまとまってない中、新しい学校に子どもを学校に行かせるのは気が退けます。 会場のヤジも、印象は良くありません。上手く意見をまとめて行くのは、難しいと思いますが、もっと明るい町、子どもたちが活躍する町にするべきと思います。	
D-12	意見	いま転出されている方も戻ってくる可能性があります。地元を愛している気持ちを大事にして欲しい。文科省資料33頁、④「学校を当該地域コミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置付け、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合」と記載があります。我々の希望しているところは、ここです。まずはここを議論して、それでもダメなら考えませんか。 小中一貫校のNPOにも携わっていますが、一貫校で成功している例は小規模校です。大規模校ではおそらく失敗すると思います。	小中一貫教育については、東地区も西地区もさほど反対はないと思っています。ただ、東・西、それぞれ一貫校となると、先ほども申しましたが、特に東地区については、いまの現状がずっと続き、子どもが減少していくわけです。減少していけば教師の数も減っていきます。資料に書いてあるデメリットを解消するためにも学校再配置をするということです。 今回の西地区での小中一貫校ですが、1学年2～3クラスで、小規模校になります。東西地区で、それぞれ一貫校となると東地区は現状と何も変わらない、どんどん教育環境が厳しくなります。これを心配してるのです。

D-13	質問	想定されている敷地は、「通学、通園に最も適している(徒歩圏内)」とある。どうやって、東地区から徒歩でいけるのか。	「西地区の中心」と記載しており、西地区からの徒歩圏内というところで記載しております。東地区からは、教育大綱にも通学バスを運行する旨、記載しており、その計画です。
D-14	意見	別院地区(児童数20人くらい)でも複式学級ですが上手くやっているようです。保護者は、バス通学では途中で帰らなければならない等弊害がでるのではとの思いで、学校を持続してもらっているようです。みんな子どものことは心配していると思うので、良い方向に向かってやっていただければと思います。	
D-15	意見	保護者説明会も出ていますが、状況が変わっていません。不明なところが多いです。これで真摯な対応と言えるのでしょうか。	皆さんの意見を聞かせていただきますと、細部にわたっての内容を聞きたいと思っておられるのかと察します。いま説明をさせていただいておりますのは、保幼小中一貫教育をどうするのか等のご意見をいただいております。詳細については、これからやっていくので、ご理解ください。
D-16	質問	「子どもたちのため」とは何か教えてください。	9年間の公教育をどのように円滑に、また教育環境を下げずに、子どもたちを育てていくかをきちんと計画を立てて準備をし進めて行かねばならない。保護者のご意見もありますが、国は義務教育については一定の教育水準を求めています。それを子どもたちに教育し、伝えて行くことが一番大事なことだと思っています。
D-17	意見	小規模の環境が教育に良いと私は思っています。人数が多くなれば、それだけ先生の目が届かなくなっていくのではないですか。	現実に東能勢小・中学校は、小規模になっています。それは、子どもたちの教育について課題があると、具体的には文科省手引6頁に記載されています。したがって、学校再配置によってある一定のクラス数、規模を確保することが、教育にとって必要だと思えます。
D-18	質問	教育委員はどうやって決めるのですか。	町長が選任し、議会の同意を得て、任命します。本町では、全て町内の方で、東地区から3名、西地区から3名で構成しています。
D-19	質問	通常は、基本設計に入った段階で工事着工になります。スケジュール(案)を見ると、基本設計も予算措置が伴うので、来年2月あたりに議会へ上程されると思うのですが、それまでに決めなければならないですね。基本設計の予算を出されるのは決まっているのですか。	今年の3月に基本計画・基本設計の予算は議会で認めていただいています。
D-20	質問	債務負担をとって基本設計はいつでもできる状態ですが、最終的に決定される時期はいつですか。	まずは、基本計画を作成させていただいて、教育委員会、行政、議会とも十分協議をさせていただいて、今後どう進めて行くかを決めていくことになろうかと思えます。
D-21	質問	住民との意見がずっと平行線です。決定の判断材料は何ですか。	先ほどからお話ししておりますとおり、保護者説明会・住民説明会の総括をし、教育委員会、行政、議会でも十分協議をさせていただき、今後どう進めて行くかを決めさせていただきたいと思えます。
D-22	質問	保護者説明会・住民説明会の総括は、いつされますか。	明確な時期は申せませんが、できる限り早く総括をさせていただきたいと思っております。
D-23	質問	基本設計の時期を教えてくださいませんか。	設計については、半年から1年かかるとみております。
D-24	意見	自治体の役割は、住民の福祉サービス。それをないがしろにしようとしているのではないのでしょうか。	賛成の方のご意見もあります。皆様のご意見を聞いた上で教育委員会、行政、議会と議論をし、再度お話し合いをしなければならぬと考えているところです。

D-25	質問	費用面ですが、費用対効果を含めた上で、提示していただけますか。	基本設計もできておりませんので、費用については確定したものではありません。これまで説明しておりますのは一般論でございます。一般的に小中一貫校の建設費用は30～50億円と言われております。50億円で試算しまして、その場合、建設年度に補助金と起債を活用しますと、持ち出しは5%、2.5億円が単年度に必要ということになります。残りの起債部分は25年を前提に考えますと、償還金に対する地方交付税措置が2/3と聞いておりますので、単年度の持ち出しが3千万円程度と考えており、現在の財政力なら持つと判断しております。 バスにつきましては、購入費用とランニングコストがありますが、バス購入費用についても財政支援があると調査しており、ランニングコストについても交付税措置があります。6つの学校を一つにすることによるコスト減と国の財政支援を合わせると、バスの経費は負担できると思っております。
D-26	質問	バス通学ですが、「朝歩いていくことで脳の目覚めがしっかりする」と言われています。子どもの健康面について聞きたいです。 東能勢中学校は建て替えから20年も経っていないのに、なぜこれを使わないかが疑問に思っています。 生徒・児童が何人以上いれば廃校せずに済むのか、具体的な人数を知りたいです。	バス通学の懸念は我々も考えており、歩く仕掛けは作らなければと思っております。それを通学時にとるか、学校でとるかは、これから考えていくところです。 現状の30人程度であれば、よりきめ細やかな指導は不可能ではないと思っておりますが、10人代になってくると質的な変化になってくるので、これは考える必要があると思っております。現状維持ができないので、再配置の考えに至ったと理解いただきたい。
D-27	意見	教育と自然環境で引っ越してきました。学校が無くなることにショックを感じています。	
D-28	意見	説明会はないと受け取れましたが、引き続き説明会を開いてもらえるよう希望します。 通学について、毎朝1時間は費やされることとなります。1日にすると2時間、通学に費やされます。東地区の子どもたちにとっては、子どものためにはなっていないと思います。	住民説明会については、どの時点でするかは明言できませんが、今後も住民の皆様方の意見を聞いていきたいと思っております。
D-29	意見	こんなに環境の良い学校はない。歴史のある学校を何故潰すのか。 希望ヶ丘で説明会をやってください。	